

# 花うさぎの「世界は腹黒い」2

日本が普通の国になるように。  
産経新聞を応援しています。

保守は「打倒！野田政権」で結束を

(2011/11/11) 1/1

(<http://hanausagi2.iza.ne.jp/blog/entry/2505571/>)

花うさぎの「世迷い言」(33)

米国民は関心も興味もないテーマ

たかがTPPで割れる愚を繰り返すな!

花うさぎ 2

検索

<http://hanausagi2.iza.ne.jp/blog/>

- 何かの力が働いていたのかも知れないが、11月8日の月曜日以降、テレビや新聞でも、TPPに関するまともな報道がようやく、やっと思われるようになった。まだまだ内容は不十分で「推進」にむけての誘導報道の色合いは残っているが、推進した場合のデメリットにも言及しはじめたのは、一応歓迎と言っておこう。
- 大手メディアの報道しない自由は、8月以降頻発している「フジテレビの偏向報道に抗議するデモ行進」が空前の規模で繰り返されているのにまったく報道しないことで、完全に実証されてしまった。信用失墜、ここに極まれり。ネットで情報を掴んでいる多くの覚醒した日本が好きな日本国民から致命的な怒りを買った。
- で、その報道しない自由で以前から気になっていたのが、このTPPについて、アメリカのメディアやアメリカ国民はどのように受け取っているのか、というテーマだ。日本では国論を二分した大論争に発展しているのだから、アメリカのメディアや国民がどう思っているのか知りたいのは当然だ。で、どうやら、アメリカのメディアも「TPPへの日本参加問題」について、ほとんど報道していない、アメリカ国民も全く関心というか興味もない、知識もない、ということが分かってきた。
- これについては、素晴らしいイラストをいつも提供してくれているブログ「愛国画報from LA」のyohkanさんのエントリーが度々指摘してくれて何となく雰囲気は伝わっていた。で、日経ビジネスが8日に掲載した田村耕太郎氏のコラム「TPPが米国の陰謀だなんてありえない」のなかで、触れている。「正直言って、アメリカ国民は、TPPなんて誰も知らない。賭けてもいい。ニューヨークからロサンゼルスまで、全米各地で100人に聞いてみても1人も知らないだろう。1000人に聞いても同様だろう。」と。



- そう、日米のそれぞれの国民を二分するようなテーマでは全然無いのだ。オバマ大統領にすれば、11月12日~13日にホノルルで開催するAPECで、日本が参加表明すれば支持率低迷に悩む大統領選に向け、少しは「ポイント稼ぎ」になる、程度の話。いまの民主党野田内閣の認識は、毎日新聞がスクープした内部資料でも明かなように、「オバマ大統領が一番喜ぶタイミング」だから参加表明するというのだ。
- ここから、「日本のためではなくオバマ大統領のために参加する」となって、中野剛志氏のいうところの売国、推進派議員を売国奴、それでは表現がきつすぎるから「BKD」という言葉が流行った訳だ。それどころか、最近になってアメリカ国民でも「日本がTPPに参加するのは反対」というデモがあったことが報じられ、同じく反対を表明した議員が大統領に要請したと言うニュースすら流されている。
- 第一、いまから参加しても「遅い」ということが種々の情報から明らかになっているではないか？

米韓FTAの内容を分析すれば、ことはたんに関税云々の話ではなく、関税自主権という国家の主権にまで及ぶことが明らかになっているのだ。ちなみに韓国での批准も反対派の国会籠城がつづき、10日も採決できなかったと言う最後の涙ぐましい抵抗がいまも続いている。

- 野田首相は、「今は大震災からの復興、福島原発の処理という千年に一度の緊急事態への対応を優先せざるを得ず、今回は参加を見送りたい」というのが日米関係へのダメージを最小にする道だろう。普天間の基地問題はお約束通り、きちっとやります、と言えよだけだ。大したことはないし、そのように日本が回答して、オバマ大統領が「烈火の如く怒りまくる」などととは考えられない。
- 第一、このような日本の有り様を変えるような極めて重大な案件を、民意を問う選挙もなしに、民主党政権が決める資格はあるのか？と筆者は考えている。民主党政権の存続する正当性はとっくの昔に消滅している。前回の総選挙を思い出すといまでも怒りが甦る。バラ色の未来とバラマキを約束し、「政権交代」のキャッチフレーズで反日マスコミとタッグを組んで誕生した民主党政権は、反日政策は進めても親日・日本の国益になる政策はなにもせず、日本にダメージを与え続けてきた。
- しかし、良く覚えているが、当時いまでも、産経新聞だけは見事な報道を続けてきた。さすがは日本の良識、日本軍が唯一より拠にしてきた保守系新聞として、日本軍の主張・意見を反映した紙面を提供し続けてきたと思う。しかし、ことTPPに関する報道だけは、「どうしたんだ産経」という露骨な推進論ばかりが目立つ。数日前に掲載された稲田朋美議員の正論をみるまでは、産経新聞の応援団を自認してきた筆者にとって、落胆の連続で、同じ思いの読者も多いに違いない。それはいまでも続いている(下記のニュースリンクを参照)

産経新聞関連ニュース

[ドジョウの迷いが「命取り」 TPP交渉に暗雲](#)  
[「逃げるな」氣勢上げる自民 でも「両刃の剣」](#)  
[【主張】TPP表明先送り 党内融和より指導力示せ](#)  
[【主張】TPP 首相は迷わず参加決断を](#)

- もっと困った事態だと思ったのが、保守を代表する櫻井よしこさんまで推進論を主張していることだ。しかも国基研のHPにも掲載されている論文を拝見すると、他の識者を意見を引いて自由貿易原則論を展開しているに過ぎない。もともと保守の論客は、外交・防衛・歴史認識・近現代史の分析には飛び抜けた能力を持つが、こと経済に関しては弱いというのが本当のところだと思う。
- 今回のTPP反対論が勢いつているのは、利害関係を持つ分野が予想以上に広範囲にわたることで、農業以外でも反対論が拡大したこと。国会議員も過半数以上が反対を表明したこと、44都道府県議会で反対決議がされていること、を考えるべきだろう。ここにいたって、そもそも論、原則論、日米同盟重視論や対中警戒論を超えたレベル、日本にとって死活問題であることが認識されたのだと受け止めるべきだ。
- しかし、たかが経済交渉の一つであるTPP問題で保守が割れたのは衝撃的だ。かつての郵政民営化を思い出す。いまなら脱原発か、原発維持かの論争もそう。いま、日本にとって本当に重要な課題は何か？それは反日半島政権を潰して、日本国民のための本物の保守政権を誕生させることではなかったのか。日本国民が、この政権なら安心して日本の国益を第一にした交渉をしてくれる、そういう信頼できる政権を樹立してからでも経済貿易交渉への本格的参加は遅くない。保守は割れてはならない。団結して反日政権を一刻も早く打倒しようではないか。

\*写真・動画・イベント情報・関連リンク先などは是非、ブログにてご覧下さい!



『花うさぎの「世界は腹黒い」』お勧め動画  
マスコミが報じない正しい歴史、日本が好きな人は必見!  
「凜として愛」「氷雪の門」「誇り~伝えよう日本のあゆみ~」  
「めぐみ」「日本がアジアに残した功績」「真実はどこに...」

わからない事は  
調べましょう!

検索

iza ブログランキング  
【全体】4位 【政治】1位  
(2011年10月8日時点)